

第三者意見



評論家
シチズン・オブ・ザ・イヤー選考委員会
委員長

五代 利矢子氏

世界同時不況という厳しい経済環境の中、企業が如何にして社会的責任を果たしていくか、これを解くキーワードは「本業を通じてのCSR活動」と「従業員ひとりひとりの認識と実践」にあると考えます。その意味からも、担い手としての従業員各自が、自分なりの「CSR」を書いたボードを掲げている見開きは説得力があり、続いて、グループ概要、製品紹介、トップメッセージと全体像を、カラフルに明快に紹介していく展開は爽やかで、テンポがあります。

グループのコアとも言うべき「ものづくり」に関しては、7項目の環境基準をクリアした2008年度新モデル「環境配慮型製品」は99%を達成し、2009年度には100%完遂を目指すと共に、更なる上位基準を新設するという意気込みを評価します。

消費電力の少ない電子ペーパーセル、発光効率の高い照明用LED等々「ミクロの世界で培われた高精度の技術力」を活かした環境対応製品は、グループの今後の方向性を示唆しています。

ただ、シチズンの代表的製品エコドライブの特集では、上段は刈り込んで、下段の担当者コメントをクローズアップする方が主旨が活きるように思いました。内容を詰め込みすぎず、簡潔な文章で、「読んでもらう工夫」がほしいところです。

CSR活動の取組み状況では、全社中39社の調査でコンプライアンス意識や、CSRホットライン認知度に大幅な向上がみられ、また課題ごとに各社の実施状況を、多様な角度からアプローチしており、総じて今回は「目標」と「達成度」を目に見える形で示そうとする努力が紙面から伝わってきました。

今後コアとなるべき従業員に対する課題ですが、「多様性の尊重」という人を大切にする人材育成方針は、スキルの習得のみならず、自由闊達な風土から生まれる新技術を育む基盤醸成であり、社の将来を見据えた取組みとして期待しております。



株式会社インテグレックス
代表取締役社長

秋山 をね氏

昨年、CSR報告書は、企業理念実現のための取り組み（PDCA）に対するコミットメントの発信ともいえると思われました。本年も同じ視点から意見を述べたいと思います。

1. 評価したい点

昨年同様、事業活動のすべてで、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念に基づき取り組みを進めています。今年は、取り組み状況を4点で総括すると共に、企業行動憲章に即したCSRの課題と取り組み状況の表も復活、活動のPDCAを回していることがわかります。また、グループ各社の取り組み紹介も増え、グループとしての取り組みの広がりが感じられます。

環境経営では、昨年に続き、今年度の目標、実績、評価、次年度の目標が示され、PDCAを回しながら継続的に取り組む姿勢が評価できます。海外での取り組み事例も紹介され、各製造拠点で取り組みを進めていることがわかります。

2. 一層の努力や改善を求めたい点

昨年と比べ、よりPDCAを意識したつくりになっていますが、環境経営のように、取り組みの評価と次年度の目標まで一覧表にすると、流れがより明確になります。環境経営の目標未達成項目については、特に、取り組みの見直し（Check）と改善（Act）が重要です。

海外での課題や取り組みについては、努力が感じられますが、一層の情報が欲しいところです。これについては、中国拠点でCSRミーティングを開催し、各拠点の実情を把握、今後の進め方を検討されたとのことなので、来年の報告を期待します。

3. 今後への期待

「市民に愛され市民に貢献する」は、まさに社会最適企業としてのコミットメントであり、今後は、社会最適企業だけが持続的に成長できると考えられます。これからも、「全員参加」という全社最適で、地球と人にやさしいものづくりを続けられることを期待します。